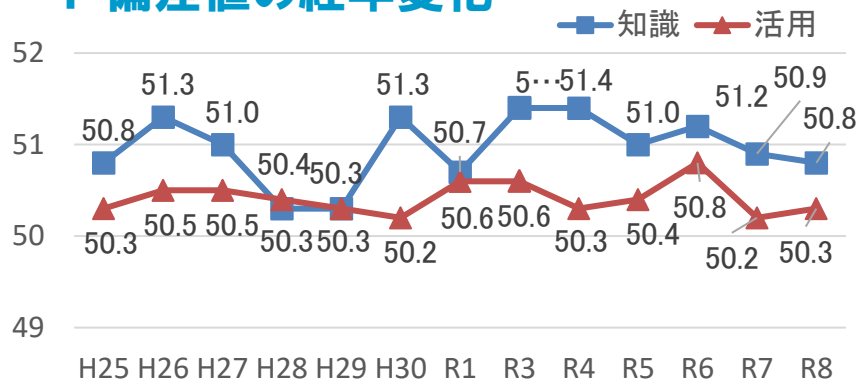


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

2 観点別の結果

観 点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	62.2	59.9	59.3
思考・判断・表現	50.1	50.2	51.3

○「知識・技能」において、全国正答率を上回っている。
▲「思考・判断・表現」において、全国正答率を下回っている。

3 領域別の結果

領 域	県正答率	全国正答率	目標値
数と式	67.7	65.7	65.5
図形	59.9	58.3	57.8
関数	49.4	48.7	48.3
データの活用	51.3	49.3	50.0

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	60.9	58.9	58.0
短答	61.9	60.2	59.6
記述	25.2	26.5	35.0

○「選択」と「短答」において、全国正答率を上回っている。
▲「記述」において、全国正答率を下回っている。

■ つまずきが見られた問題

大問20(1) 県正答率8.3% 県無解答率24.2%

【ねらい】

回転移動させてできる図形の移動の方法を説明することができる。

【問題の概要】

2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する。(記述)

【正答の条件】

- ① 「点Aを回転の中心として」などの回転の中心の位置
- ② 「反時計回りに」などの回転の方向
- ③ 「 120° 」などの回転角の大きさ

◆ 指導のポイント

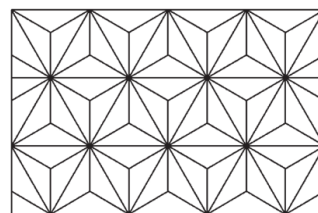
- 図形の移動を通して、移動前と移動後の2つの図形の関係に着目できるようにすることで、図形の性質や関係を見だし、図形の性質について考察し表現する活動を大切にする。
- 実際に図形を紙で作って動かしたり、コンピュータを利用したりするなどの観察、操作や実験を取り入れ、図形の移動を視覚的に理解できるようにすることが大切である。

★ 指導の具体例

日常の事象を図形の形や大きさ、構成要素や位置関係に着目して観察し、その特徴を捉える場面を設定し、図形の性質や関係を用いて日常の事象の特徴をよりの確に捉えたり、問題を解決したりすることができるようにする。

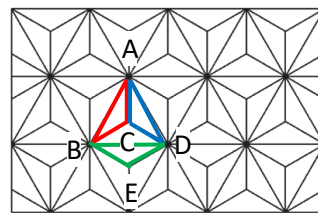
★麻の葉文様について、図形の対称性に着目して観察する。

○この文様は頂角 120° の合同な二等辺三角形を敷き詰めてできたものであり、それぞれの二等辺三角形は1つの二等辺三角形を対称移動したり、回転移動したり、平行移動したりした図形などと捉える。



★移動前と移動後の2つの図形の間に成り立つ事柄を説明する。

○麻の葉文様を図形の移動に着目して、赤い三角形($\triangle ABC$)と青い三角形($\triangle ADC$)の2つの図形の関係を捉える。



○赤い三角形($\triangle ABC$)と緑の三角形($\triangle BDE$)の2つの図形の関係を捉え、回転移動において、どの点を回転の中心としてどちらの向きに何度回転されているかを見だし説明する。

○包装紙やタイルなど身の回りにある模様を合同な敷き詰め模様として考え、その中の2つの図形がどのような移動によって重なるか調べる場面を設定する。